

## 気候情報

### 2007年7月の日本の天候

気温低い（北～西日本）、  
降水量多く日照時間少ない（東日本、西日本）

#### 7月の天気概況

上旬から中旬を中心に、太平洋高気圧の北への張り出しが弱く、梅雨前線が本州付近に停滞しやすかったため、東日本から西日本にかけて曇りや雨の日が多かった。上旬には活発な前線の影響で、九州地方を中心に大雨となり、中旬には台風第4号が13日に南西諸島を通過し、15日にかけて九州から本州南岸を東進したため、南西諸島と東・西日本の太平洋側を中心に大雨となった。一方、北日本では低気圧や前線の影響を受けにくかったため、日本海側を中心に晴れの日が多く降水量が少なかった。気温は、中旬を中心に寒気の影響を受けやすかったことから、北日本から西日本にかけて低かった。南西諸島では、太平洋高気圧に覆われ晴れて気温が高い日が多く、月平均気温は、1946年以降で第2位の高い記録となった。

九州以北の梅雨明けは、太平洋高気圧の北への張り出しが遅かったため、全般に平年より遅かった。

**上旬：**活発な梅雨前線が本州付近に停滞し、東日本と西日本では曇りや雨の日が多く、九州地方を中心に大雨となった。北日本では、高気圧に覆われ晴れの日が多かった。南西諸島では、太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温が高い日が多かった。旬平均気温は、南西諸島で高く、北・東・西日本で平年並だった。旬降水量は、西日本で多く、北日本と南西諸島で少なかった。東日本で平年並だった。旬間日照時間は、北日本と南西諸島で多く、東・西日本で少なかった。

**中旬：**低気圧や本州付近に停滞した梅雨前線の影響で、北日本太平洋側と東・西日本では曇りや雨の日が多かった。また、台風第4号が13日に南西諸島を通過後、14日に鹿児島県に上陸し、15日にかけて本州南岸を東進したため、東・西日本の太平洋側と南西諸島を中心に暴風や大雨となった。太平洋高気圧の北への張り出しが弱く、梅雨前線が本州付近に停滞しやすかった。北日本から西日本では寒気の影響を受けやすかった。九州南部は18日ごろに平年より遅く梅雨明けとなった。旬平均気温は、北・東・西日本で低く、南西諸島では高かった。旬降水量は、東・西日本の太平洋側と南西諸島で多く、北日本日本海側で少なかった。北日本太平洋側と東・西日本の日本海側で平年並だった。旬間日照時間は、北日本太平洋側、東・西日本と南西諸島で少なく、北日本日本海側で平年並だった。

**下旬：**梅雨前線の活動が弱まり、23から24日ごろに九州北部から近畿地方にかけて、27日ごろに東海地方で平年より遅く梅雨明けとなった。北・東日本では、低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨となった。月末には日本付近に寒気が入り、東日本を中心に雷雨となったほか、気温も下がった。南西諸島では、

高気圧に覆われて晴れて気温が高い日が多かった。旬平均気温は、北・東・西日本で低く、南西諸島で高かった。旬降水量は、北日本太平洋側で多く、西日本と南西諸島で少なかった。北日本日本海側と東日本は平年並だった。旬間日照時間は、北日本太平洋側、西日本、南西諸島で多く、東日本で少なかった。北日本日本海側では平年並だった。

#### 7月の気候統計

**月平均気温：**北日本、東日本、西日本で低く、北海道と本州の広い範囲で平年を1°C以上下回った。一方、南西諸島ではかなり高かった。

**月降水量：**東日本から西日本にかけての太平洋側でかなり多く、西日本日本海側では多かった。東北地方から九州にかけての太平洋側では、所々で平年の200%以上となった。一方、北日本日本海側ではかなり少なく、北日本太平洋側、東日本日本海側、南西諸島では平年並だった。

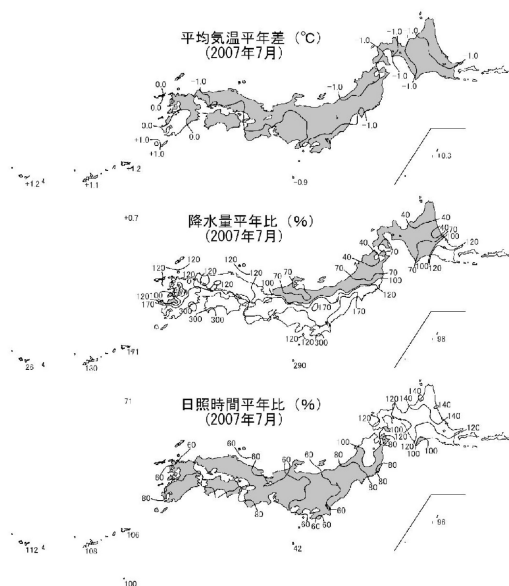
**月間日照時間：**西日本で少なく、東日本ではかなり少なかった。関東甲信地方や北陸では多くの地点で平年の60%未満となった。一方、北日本日本海側と南西諸島で多く、北日本太平洋側では平年並だった。

（気象庁観測部統計室）

#### 7月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温高い方から（°C）  
与那国島 29.7 西表島 29.7
- ・月降水量多い方から（mm）  
延岡 834.5 清水 696.0
- ・月降水量少ない方から（mm）  
羽幌 15.0

#### 2007年7月の平年差（比）図



注）陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。